

どんな人が「新型うつ」になるのか？
—対人過敏・自己優先尺度の
開発と応用—

臨床心理士

博士(心理学)

村中 昌紀

○従来型のうつ病と「新型うつ」の対比

従来型のうつ病と現代的特徴をもつ抑うつとの対比

	従来型うつ病	新型うつ
相違点	発症年齢 ・中高年に多い	・20代から30代の若手に多い
性格的特徴	・内向的で責任感が強い性格	・根拠のない自信と過剰な自己肯定感を持つ
病態	投薬治療の効果が薄く、心理・社会的要因の影響すなわちパーソナリティやストレスとの関連が考えられる。	
自殺の可能性	・自殺の危険性がある	・自殺の可能性は少ない
投薬の効果	・薬が比較的よくきく	・薬の効果が限定的
共通点	症状 ・抑うつ気分 ・倦怠感 ・意欲、関心の低下 ・食欲・睡眠の問題	

〇わかっていないこと

Q1:「新型うつ」はどんなパーソナリティが関連しているか？(尺度の**開発**)

Q2:そのパーソナリティはストレスや抑うつとどのように関連するか？(尺度の**応用**)

○わかっていないこと

Q1:「新型うつ」はどんなパーソナリティが関連しているか？(尺度の開発)

Q2:そのパーソナリティはストレスや抑うつとどのように関連するか？(尺度の応用)

○「新型うつ」とパーソナリティ

(村中・山川・坂本, 2015)

- ① 14冊の書籍における「新型うつ」のパーソナリティに関する記述を抜粋
- ② 抜粋した特徴をKJ法により整理する
- ③ 整理したパーソナリティに関して24名の臨床家(精神科医・臨床心理士)に評価してもらう

○対人過敏傾向・自己優先志向

書籍での記述の整理，臨床家への調査から大きく2つの特徴を含むことが示唆された。

・対人過敏傾向：

他者からの評価を過度に気にしたり，
他者からの評価に過剰に反応したりする傾向

従来型の抑うつにもみられる

・自己優先志向：

自己の快を他者や集団との関係よりも
優先させて追求しようとする傾向

「新型うつ」のみにみられる

○対人過敏・自己優先尺度の作成 (村中・山川・坂本, 2017)

「新型うつ」の実証的研究のためには、
対人過敏傾向・自己優先志向を測定する尺度が必要

○対人過敏傾向，自己優先志向を測定する
尺度として，**対人過敏・自己優先尺度**
(Interpersonal sensitivity / Privileged self Scale:IPS)
の全25項目を作成。

論文はこちら

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpsy/advpub/0/advpub_87.15211/_article/-char/ja

○対人過敏・自己優先尺度の作成 (村中・山川・坂本, 2017)

○対人過敏傾向

- ・評価への敏感さ
- ・評価への過剰な反応
- ・回避

○自己優先志向

- ・独善
- ・被害者意識
- ・成果主義

○IPSの特徴

○IPSは、対人過敏傾向と自己優先志向の2つのパーソナリティを測定する。

○IPSは、現在の抑うつの程度と関連する。

○IPSは、非定型の抑うつにおいて点数が高い。

○IPSの得点は、時間的に安定した特徴を測定する。

○わかっていないこと

Q1:「新型うつ」はどんなパーソナリティが関連しているか？(尺度の開発)

A1:「新型うつ」は対人過敏傾向と自己優先志向の2つのパーソナリティが関連している。

それらの特徴を測定する尺度としてIPSを開発した。

〇わかっていないこと

Q1:「新型うつ」はどんなパーソナリティが関連しているか？

Q2:そのパーソナリティはストレスや抑うつとどのように関連するか？(尺度の応用)

○ストレス生成モデルで考える



○ストレス生成モデルの検証方法 (村中・坂本, 2015)

○大学生116名(女性60名)を対象とした縦断調査

1回目の調査



2回目の調査

○使用した尺度:

- 対人過敏傾向・自己優先志向: IPS
- 対人ストレス: 対人ストレスイベント尺度
(橋本, 1997)
- 抑うつ: Global Scale for Depression
(福西・福西, 2012)

○ストレス生成モデルで考える



対人過敏傾向，自己優先志向ともに
対人ストレスを媒介してのちの
抑うつに影響を及ぼしていた。

○社会人でも検証

(村中・山川・亀山・坂本, 2017)

○インターネット調査による縦断調査 ($n=439$)



○使用した尺度:

- ・対人過敏傾向・自己優先志向: IPSの短縮版
- ・職場のストレス: 職業性ストレス簡易調査票
(下光・原田, 2000)
- ・抑うつ: K10 (Kessler et.al. ;2002)の日本語版
(古川・大野・宇野・中根, 2003)

○ストレス生成モデルで考える



対人過敏傾向，自己優先志向ともに
大学生における調査と同様に，
職業性ストレスを媒介し，後の抑うつに
影響していた。

〇わかっていないこと

Q1:「新型うつ」はどんなパーソナリティが関連しているか？

Q2:そのパーソナリティはストレスや抑うつとどのように関連するか？(尺度の応用)

○わかっていないこと

Q2: そのパーソナリティはストレスや抑うつとどのように関連するか？(尺度の応用)

A2: 対人過敏傾向と自己優先志はストレスを強め、それによって抑うつを発生させる。

○わかったこと

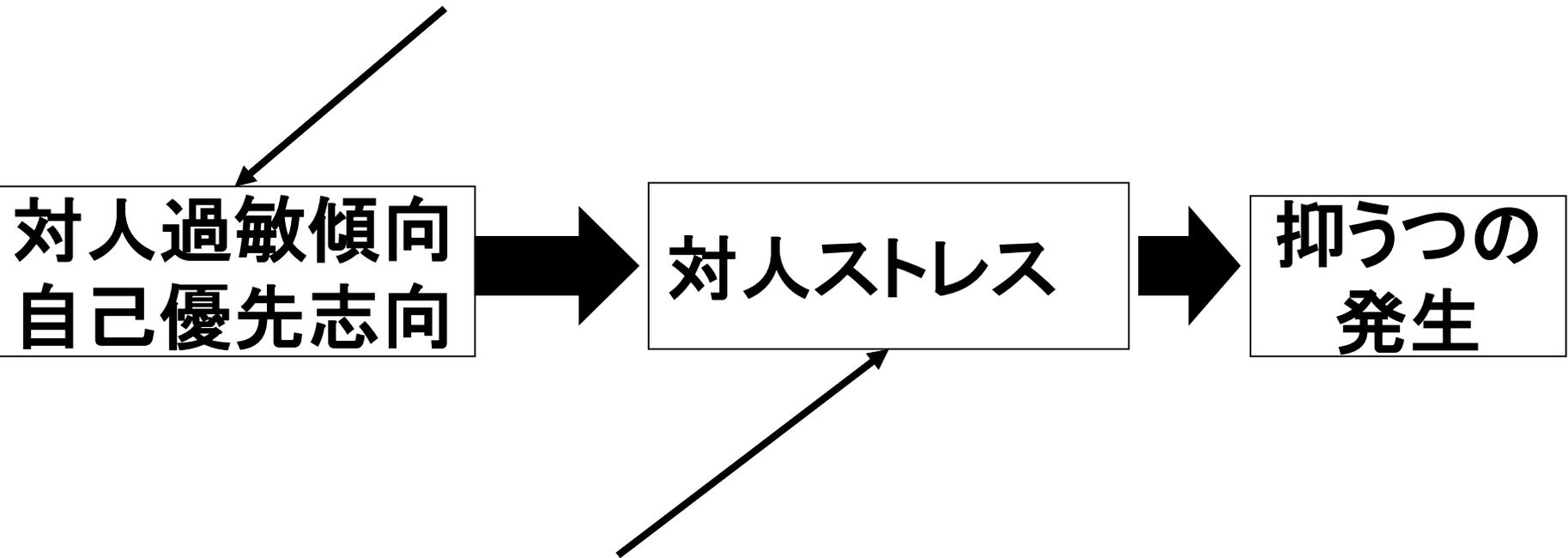
A1: 「新型うつ」は対人過敏傾向と自己優先志向の2つのパーソナリティが関連する。

A2: 対人過敏傾向と自己優先志向はストレスを強め、それによって抑うつを発生させる。

対人過敏傾向と自己優先志向を持つ人は、ストレスを強く経験し、その結果起こるのが「新型うつ」であると考えられる。

○今後の展望

- ・介入のためのさらなる検討が必要



- ・「新型うつ」の発生には対人関係上のストレスが影響すると考えられるため、周囲からのかかわり方を検討する必要があるだろう。

ご清聴ありがとうございました。

**ご意見・ご感想は
masaki-muranaka@dune.ocn.ne.jp
までお願いいたします。**